

9名の留学生との意見交流会

3月5日(土) 3・4限の「総合的な学習の時間」に、特進・啓明コースの1年生(203名)を対象に、9名の大学院留学生との意見交流会を行いました。彼らは、それぞれインドネシア、韓国、ベトナム、ラオス、中国の出身で、日本に留学をして名古屋大学で研究を進めています。

次年度、啓明コースの生徒はシンガポールへ、特進コースの生徒は沖縄へ、それぞれ研究のための研修旅行に行きます。そこで今回の交流会はそれぞれの研究の出発点と位置付け、以下のような点を中心に行いました。

まずは彼らから「母国のこと」と、彼らの抱く「日本のイメージ」について聞き出してみました。次に、意外なほどに聞く機会の少ないのが、他国の人からのまた別の国への見方ですので、それぞれの留学生の「母国から見たシンガポール」についても聞いてみました。そして、人によって、環境によって、国によって様々なはずの平和の定義について、未来志向で「平和についての思い」を、互いに語り合いました。最後に研究の先輩である留学生の皆さんから「今後、研究を進めていくうえでのアドバイス」をいただきました。



生徒からは以下のような感想が出ました。



- ・ベトナムではこどもの夢を叶えるよりも、こどもの社会的地位の向上を願って教育を受けさせることを聞き、自分の好きな分野の学問を学ぶことは幸せだと思った。
- ・私は平和とは今、戦争がないことだと思っていたが、他にも人種差別や戦後の世代の影響がないことが平和であるという考えを知ることができた。

結果的に、生徒たちにとってははじめて出会う国の人もあり、多様な価値観について触れる、一つのきっかけとなったと思います。